



「風が吹けば桶屋が儲かる」(^_-)-☆

保護者の皆様、こんにちは。コロナ禍の自粛が続く中いつのまにかいい季節になりました。お天気のいい日に窓を開ければ心地よい風も感じます。

遙か古代から続く窓文化。窓は全世界で共通する生活の必須アイテムですね。窓を開けば、新鮮な空気が入ってくるし、ドアより安心して開けっ放しにできるし、窓を閉めれば風や光、外部の音や視線を手軽に遮断できます。

私たちのところにも窓の役割があります。嫌なことを言われると窓を閉め、安心できると窓を開け広げます。そして安心できたりその思いが伝わったりすると、窓を開け自由に外部の意見や関わりを受け取ることができます。

子どもをしつめたり指導したりするとき、子どもがこちらの窓を開けてくれないと何を言っても子どもの中に入っていない気がします。イメージとしては太陽と北風のお話でしょうか……。無理やりこじ開けるのではなく、自ら窓を少し開けてみようかなというような刺激を与えることです。よく言われるのは①スモールステップ②先の見通しや目的を呈示する③親が模範をしめす④励ます⑤ほめる⑥待つ姿勢などですね。もちろん叱る、諭す、距離をおくなどのしつめも大切です。方向性を示しながらの子どもにとって心地よい刺激も、子どもにとって嫌だと思える刺激も両方があるからこそ大切な可能性へと導いてくれます。子どもの心に届かないようでも、伝え続けることは大切です。

しかし課題設定しても上手くいかないときは、ほとんど親は疲れ果てます。そんなときはその課題から離れて、的外れと思われる刺激が案外うまくいきます。例えば、「友だちをたくさん作って欲しい」「ゲームは決められた時間内で」との親の願いがあります。直接的なしつけや介入もいいですが、休日は親と朝散歩はどうでしょうか？ストレス解消，体力増強，親との絆の深まりで安定感が増す，続けることで達成感味わえ，出会う人と親が挨拶することであいさつの心地よさと積極性や現実感などを学びます。まわり廻って課題クリアしそうですね。実際まわり廻って風が吹けば桶屋が儲かるのです。目先の問題を指摘し変えることだけにこだわると大切なこどもの能力が埋もれてしまいます。方向性を示しながらも課題と別の刺激（関わり）をたくさん与えてみましょう。不思議なことが起こります。こどものこころの窓が大きく開いていきます。

(文：時川ちづる)

これから2学期までのスクールカウンセラー来校予定日

10月13日(火)終日 11月17日(火)終日 12月8日(火)終日

子育ての悩みや相談などがありましたら、各担任，教育相談担当（山本）

または養護教諭（小宮）までお気軽に，遠慮されずに連絡をください。



☆連絡先 佐志小学校（74-3445）

*1回の相談時間は，約1時間

*相談料は不要です。